

平成22年度第1回千葉市史編さん会議議事録

1 日 時：平成22年5月25日（火） 午後1時35分～3時25分

2 場 所：郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、今井委員、白井委員、本郷委員
（千葉市史編集委員会代表）三浦茂一委員長
（事務局）

宇留間生涯学習部長、古川生涯学習振興課主幹
倉田郷土博物館館長、殿塚副館長、若菜学芸係長、
築瀬副主査、市史囑託職員（大関：記録係）

4 議 題

- (1) 平成22年度事業予定（案）について
- (2) 今後の事業予定（案）について
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 平成22年度事業予定（案）について

本年度計画している資料調査・収集・整理事業、刊行事業（千葉いまむかし・ニューズレター）、普及事業（市史研究講座・各古文書講座・ミニ企画展）、市史研究会などの研究事業、市史協力員の活動について承認された。

- (2) 今後の事業予定（案）について

今後予定される刊行物の刊行事業（『史料編 近現代』・『歴史読本』・『千葉市史料』）について、これまでの編さん会議での意見を取り入れて市の方でもっと前向きに検討してほしいとの要望が為された。

- (3) その他

6 会議経過

午後1時35分、委員6名中4名着席。野村副会長・安田委員は欠席。

司会（殿塚副館長）より、今年度から要綱設置の千葉市史編纂会議を廃止し、千葉市史編さん会議が条例設置されたことについて説明し、委員については千葉市史編纂会議の委員を全員再任したことを報告した。次いで、会長・副会長の人事について委員より意見を求めたが、特に意見は出なかった。このため、事務局からこれまでと同じ吉田伸之会長・野村實副会長という人事を提案し、委員の了承を得た。

異動した職員の紹介、資料確認、続いて設置条例第5条第2項の規定により、この会議が成立していることが告げられ開会。

宇留間生涯学習部長の挨拶、吉田会長の挨拶に続いて議事に入った。

議題1 平成22年度事業予定（案）について

平成22年度の市史編さん関係の事業について、史料調査・収集・整理事業、市史等の刊行事業、編さん普及事業、研究事業、市史協力員、その他の活動の六つに分けて若菜係長が説明した。

<質疑応答>

吉田会長：多岐にわたるが、まず1の史料調査・収集・整理事業についてはどうか。

近現代編関係調査の項に「聞き取り調査」とあるが、これまで彦坂氏がやっていたものかと思うが、今後はどういった形で行うのか。

事務局（築瀬）：今後は事務局（担当職員、非常勤・嘱託職員）で行う。

吉田会長：近現代関係の編集委員会は今現在どういう状況にあるのか。

事務局（築瀬）：昨年度は3回近現代史部会を開いた。今年度は予算の関係で一度しか部会を開けず、8月くらいを予定している。

吉田会長：『史料編 近現代』編集作業の見通しはどうなっているのか。年度ごとの関係調査はどういった戦略のもとに為されているのか。

事務局（築瀬）：編集委員会は年に1回開くことになっている。調査の成果は随時近現代史担当の委員へ連絡するつもりである。これに対する委員の意見を事務局の作業に反映させていきたい。今年度は予算の関係でそのようになるが、来年度以降は予算請求をして、人員なども増やしていきたい。今年度は委員の調査費も無いので、事務局がやれる範囲でやっていくしかない。

吉田会長：そういった状況を委員は諒解しているのか。

事務局（築瀬）：詳しい説明はこれから行う。

吉田会長：基本的に、聞き取り調査を含み議題にある調査は全て彦坂氏がなくなった後の事務局ですべてカバーするということか。

事務局（築瀬）：そうなる。

吉田会長：編さん会議の任期は2年だったと思うが、編集委員もそうだとすると、こうして刊行計画が延びていくことで編集委員のやる気が失われて辞める人も増えるのではないか。それについては大丈夫なのか。

事務局（築瀬）：委員となるべく密にコンタクトを取って進めていくつもりである。

本郷委員：実態が動いていないのに、編さん会議が年に2回開かれているが、むしろ編集委員の方をこそ年に2回開いた方がよいのではないか。

吉田会長：委員の先生が博物館に調査に来たとしても一切謝礼が出せないということか。

事務局（築瀬）：今年度はそういうことになる。

吉田会長：三浦委員長はそうした状況をどう把握されているか。

三浦委員長：状況はあまりわからないが、出鼻をくじかれた感はある。事務局だけで何とかするのはかなり難しいと思う。ただ、編さん会議が条例化したということで、前より存在感も高まっていると思うし、編さん会議の方からも何かアピールしてもらえないかと思う。個人的にはなるべく何かのついででも博物館に寄って調査をし、事務局との連絡は密にしようと思う。永久に現状が続くとも思われな

いので、予算が付いたときのためにもある程度犠牲的にでも動いておかなければならないと思う。

吉田会長：三浦委員長から見て、編さん会議でできることというのはどういうことだとお考えか。

三浦委員長：そうしたことは事務局が答えるべきだと思う。我々には実際には行政内部で決定されたことに従うしかない。

吉田会長：生涯学習部としてはどのように見ているのか。

宇留間部長：予算要望はしている。医療・介護・教育というような順で予算措置はしており、教育費全体では前年度と同様の金額が予算化されているが、耐震や学校校舎の改築など緊急的なものが優先されている。これから長期基本計画等を検討しているので、そちらで近現代の史料集刊行を相談のうえ計画としてあげ、予算要望していくつもりである。

吉田会長：長期基本計画というのは5か年計画のことか。

宇留間部長：基本は10年の計画である。そのほかに実施計画というのが3年ぐらいの短めの計画がある。

吉田会長：『史料編 近現代』は実施計画にのっているということか。

事務局（倉田）：当初は載っていた。

吉田会長：2の刊行事業についてはどうか。ニューズレターがモノクロになるのは残念だが、実際の市民の反応はどうか。

事務局（築瀬）：博物館の入り口などにも置いており、持ち帰っている方もいるようだ。講座の案内も載せているので、時々問い合わせもある。

本郷委員：HPなどで公開はしているのか。

事務局（築瀬）：公開している。

白井委員：2000部の配布先はどこか。手元にはどのぐらい残っているのか。

事務局（築瀬）：主に市内の図書館や学校が多い。手元には200～300部程度残る。

吉田会長：手元というのは博物館で配布する分ということか。

事務局（築瀬）：その分である。

吉田会長：以前にも聞いたが、『千葉いまむかし』の編集は編集委員会で行うということだが、編集委員会はいつ行うのか。

事務局（築瀬）：例年11月か12月に行う。

吉田会長：では、ここにある内容は昨年末の編集委員会で決められたものなのか。

事務局（築瀬）：あくまで事務局の原案で、昨年編集委員会に示してはいるが、ここまで詳しいものではなかった。

吉田会長：『千葉いまむかし』の編集権限はどこにあるのか。

事務局（築瀬）：編集委員会にある。

吉田会長：この24号の内容については、昨年末の編集委員会で決めたということか。

事務局（築瀬）：内容は決めていない。今年末の編集委員会にかけることになる。

吉田会長：あくまで事務局の案で、まだ決まっているわけではないということか。

事務局（築瀬）：まだ決まっていない。まだ募集中の原稿もあり未確定である。

吉田会長：たとえば今ここで編さん会議から意見を言えば反映されるということか。

事務局（築瀬）：反映はできる。

本郷委員：『千葉いまむかし』の編集委員というのがあるということか。

事務局（築瀬）：『千葉いまむかし』だけの編集委員ではなく、市史の編集委員会の中で『千葉いまむかし』も編集している。

吉田会長：3月に出すものを、11月の編集委員会で決めるというのは時期的におかしくないか。当初からそうだったのか。

今井委員：『千葉いまむかし』の最初の頃は編纂委員会で史料編の刊行と一緒に編集を進めていた。当時は原稿をどういった内容にするか、どうした特集を組むかなども会議の議題になっていた。編集委員会が編集する形になったのが何号ぐらいかわからないが、どこかの時点から変わってしまったようだ。編集を編さん会議でやっていくのか、編集委員会でやっていくのかによって、現状では時間的におかしい。原稿依頼はある程度早めに事務局から声をかけているのだと思うが、編集委員会で違う内容を入れた方がよいということと言われた場合どうするのか。

吉田会長：現状では事務局が編集していることになる。

事務局（築瀬）：そうなる。実質的には事務局が編集している。

吉田会長：それでも、編集権限は編集委員会にあるというのは矛盾している。

事務局（築瀬）：実質は事務局がやっているが、編集委員会の承認を得て行っている。

吉田会長：事実上、事後承諾になっているということか。例えば、江戸と千葉の研究会が昨年度から動いているが、そういったことが今の案では全く反映されていない。他の研究会などについても、どういった形で『千葉いまむかし』に反映させていくつもりなのか。書いたものが公表されるというのは非常にナイーブな問題でもあり、編集権限がどこにあるのかは重要な問題である。事務局にあるのだとはっきり言うのであれば現状でいいと思うが、編集委員会にあるのであれば、ましてや査読もするのだから、現在のやり方ではまずい。一つの案としては、今の編集委員会とは別に、そこに属している委員の中から何人か任命して『千葉いまむかし』の編集委員会を作り、企画・運営をした方がいいのではないか。

事務局（築瀬）：今の体制では編集委員会が担当することになっている。現状のままですっきりする形を考えたい。

事務局（倉田）：矛盾が生じているのは事実なので、現在の仕組みを見直していきたい。新たな仕組みを作ると、また予算の問題が出てきてしまうので難しい。

吉田会長：たとえば編集委員会を夏に開いてはどうか。

事務局（倉田）：それも含めて検討していきたい。

吉田会長：理想的にはいまごろ開いて内容を決めて依頼するのがよい。11月に開いて話すのならその次の号になるはず。

事務局（倉田）：整合させるようなシナリオを検討したい。

事務局（築瀬）：江戸と千葉研究会なども活動の記録の中に入れていきたい。報告されたものも文章にしていただければ、掲載する方向も考えたい。

吉田会長：それは投稿すればいいということか。

事務局（築瀬）：寄稿していただくということである。

吉田会長：3の普及事業についてはどうか。前回会議で話された研究講座については

基本的に反映されていないようだが。

本郷委員：6月26日にやる研究講座を、6月1日に募集を開始するということか。

事務局（築瀬）：そうである。市政だよりに出すのは6月1日号である。チラシも作って既に配布している。

本郷委員：短期間の募集にも関わらず、これだけの人数が集まるのだから、現実には市民に望まれているという実績の部分をもう少し訴えていけばよいのではないか。

吉田会長：やはり有料化はできないのか。

事務局（倉田）：役所としての歳入になってしまうので、予算としては別枠になってしまい、そうなるとそこでの収入を思ったようには動かせない。

白井委員：なるべく多くの希望者にとということだが、1日に3講座あると全部出ない人もいると思うが、応募者が多数で抽選になった場合、どの程度まで人数を採るつもりなのか。

事務局（築瀬）：最大240名ぐらいまでは入るが、そこまで入れると大変なので、一割増しぐらいを考えている。

事務局（倉田）：すべて聞きたい方もいると思うので、その辺も難しい。

事務局（築瀬）：なるべくテーマをそろえて、1日通しで来られるようにという配慮をしている。

事務局（倉田）：美術館の時よりは定員を増やしている。

吉田会長：生涯学習部の中では、様々な講座を開かれていると思うが、そうしたことの全容は部の方で把握しているのか。

宇留間部長：生涯学習センターがあり、そのなかで「まなびネット」というのがあり、市政だよりで募集をかけている講座については検索できるようにしている。基本的にインターネットを使わない方には検索出来ず申し訳ないが、ネット上では検索できる形になっている。

吉田会長：生涯学習全体の中で、市史研究講座をどう位置づけているのか。市史の側でもそれを自覚することが大事だと思う。例えば、研究講座で話した方がどこかのセンターでもう一度講師をするというようなことも含めて考えてはどうか。

宇留間部長：公民館の方には生涯学習部から講師の紹介などもしている。

吉田会長：古文書の講座などはどこかで行われているのか。

今井委員：古文書講座はやっていないと思う。歴史系の話も、公民館でやるとなるとまずその地域、という感じになる。また実際には公民館では研究講座で頼む講師の先生方に払えるほど予算はない。図書館などでも地域資料関係の本を読むというような講座をすることはあるが、それをすべて集めても、千葉市のなかではあまり講座をやっていない。

宇留間生涯学習部長：公民館でも民間が無料で提供している講座などの利用が増えてきているという現状である。専門の先生を頼んで来てもらうのは難しい。

今井委員：10月の講座は全て近現代だが、これで200名集まるのか。研究講座をいつもやっても、後半の近代になってくると減っていたと思う。

事務局（倉田）：今回は近代だけで募集するので、近代に興味のある方が応募されるはずである。その日のうちに段々減るということはないと思う。近代そのものが

市民に興味のあるテーマかどうかという問題はあると思う。

三浦委員長：10月30日1日で3本か。それは選んで聞いてもいいのか。そもそも関心のある方が集まるから大丈夫というのは新しい考え方ではある。

吉田会長：会場として生涯学習センターや公民館を利用することはできないのか。

今井委員：公民館では人数が入らない。100名入るかどうかである。

白井委員：公民館も会場の使用料がかかるのか。

宇留間部長：かからない。生涯学習センターは有料である。

白井委員：企画展についてだが、次回展示する写真はどなたが所蔵しているのか。所有者がかなりご高齢だと思うが、今後の保管・活用はどこですか。

事務局（築瀬）：現在写真を預かってスキャナで取り込んだところである。所有者の希望としては寄贈も考えているようである。

白井委員：そうすると、一般の市民も自由に使えるようになるということか。

事務局（築瀬）：寄贈していただけた場合、そうなる。

白井委員：何点くらいあるのか。

事務局（築瀬）：およそ500コマだが、個人的なものは返却する方向で考えている。

吉田会長：企画展の簡単な図録は作れないのか。

事務局（築瀬）：ニューズレターに紹介を兼ねて載せる。図録を作ることは難しい。

吉田会長：初回の企画展も図録が無かったが、展示で何かを表現する場合、図録は重要な媒体であると思う。粗末なものでもいいから図録を作るべきではないか。

事務局（築瀬）：何らかのものを作るようにしたい。

吉田会長：4の研究事業についてはどうか。今日の博物館4階の見学が今年度市史研究会の第一回目ということになるのか。

事務局（若菜）：4階で近現代展示を始めたので、そちらを見学していただく。

吉田会長：「江戸と千葉」研究会の概要について説明を。

事務局（大関）：江戸と千葉とに関わる史料を研究・報告する研究会。時代区分としては近世を主に考えており、現在までの5回の報告はすべて近世で行っている。

吉田会長：参加者もそれなりにいるようだが。

事務局（大関）：毎回10名前後はいる。質疑もそれなりに活発に行われているので、ある程度まとめれば内容の濃いものができるのではと思っている。

吉田会長：一種のボランティアというか、財政事情が厳しいなか、最低限の活動をするためにはこうした研究会が必要だと思っている。できればもう一つ二つ立ち上げて、おおまかなテーマで年3～4回くらいでいいから活動していければいいのではないか。前にもオーラルもやったらどうかという話をしていた。こうした形で彦坂氏にも協力を依頼するなどして、聞き取り調査を継続していくということも考えられるのではないか。

吉田会長：最後に市史協力員やその他を含めて何かあるか。このボランティアの方の上級コースというのは中級古文書講座のことをいっているのか。

事務局（築瀬）：中級古文書講座ではない。整理実習のことである。平成19年に開催したもので、現在は行っていない。

吉田会長：10名で上級コースが終わってしまうのはもったいないのではないか。

本郷委員：中級が終わってからもう少し勉強したいと思っている方の受け皿というの
はあるのか。以前は上級があったということだが。

事務局（築瀬）：登録者の中には中級経験者もいる。完全な受け皿にはなっていない。

本郷委員：今でも中級古文書講座を終わって、もっとやりたい方はボランティアの方
にいらしているということか。

事務局（倉田）：そうである。

吉田会長：中級からいきなりボランティアになるということか。具体的な活動の成果
を知りたいのだが、例えば『千葉いまむかし』に載せている活動の記録だけでな
く、何か文章を書いてもらってはどうか。

事務局（築瀬）：今回のニューズレターに書いて頂いた。

吉田会長：翻刻した史料があればそれを載せてもいいと思うが。

今井委員：ボランティアを数年やってきて、かなりの作業が出来つつあると思う。再
整理も必要ではあるが、実際に事務局の方で非常勤職員の予算も無いのであれば、
現実に整理作業をしなければならぬ部分もやっていただけないのか。

事務局（築瀬）：実際の整理もお願いしているはずである。

事務局（大関）：新規で全てをやっていただくのはまだ不安が残る。もう少し再整理
をしながら練習してもらう必要があるかと思う。

今井委員：ボランティアの方自身の研究したいといった欲求も満たしてあげる必要は
あるが、新聞記事の入力などの作業をやってもらうことはできないのか。非常勤
職員を増やすのは困難だと思うので、そこを活用する方向を考えられないのか。

吉田会長：ボランティアの作業領域をどう位置づけるかをきちんと考えなければなら
ない。ただ、見返りも大事である。ボランティアの方がなにがしかの喜びを感じ
られるように、例えば史料を翻刻したら、その方たちの名前を入れて史料集を作
っていくとか、文章化したものを『いまむかし』に掲載していくとか。そうした
活動を通して、ボランティアの方に成長していただくのがよいと思う。

事務局（築瀬）：検討していきたい。

吉田会長：では、議題2に移る。

議題2 今後の事業予定について

今後計画している刊行物とその他の活動についての概要を説明した上で、『千葉市史
史料編 近現代』『歴史読本』の進め方等を若菜係長より説明した。

<質疑応答>

吉田会長：議題にならない。歴史読本も何度議論したかわからない。このまま凍結が
進むのなら、これまでの議論は一体何だったのか。

本郷委員：史料編の近現代も、歴史読本も、それなりの枠組みを作ることをしてきた
はずだが、ここにきて実際に動かないのでは、作った編成案なども霞んでいつて
しまうのではないか。さきほどの古文書講座上級コースも平成19年度以降開催さ
れていないなど、さまざまな活動がきちんと循環できていない。企画・計画が
出来ては消えていく状態では、会議そのものの意味が無くなってしまう。お金が無

いのは仕方がないが、その中でも千葉市としての文化事業の位置づけをもっとはっきりしてほしい。もう少し長期的な視野に立って予算をつけていただかないと、今までしてきたことも無駄になってしまうという提言しか編さん会議としてはできない。ボランティアとして動くのも限界がある。

事務局（倉田）：これまでの議論を踏まえて、まず財政当局に要望を出して予算化していきたい。徐々にフェードアウトしていくつもりではない。

吉田会長：我々は今までの経緯や千葉市の現状を考えて、会議に参加したり、いろいろ考えてきたりしている。そうした意味で精一杯役割を果たそうとしているので、市の方も苦しい状況の中で今後どうしていくのかを提示すべきではないか。例えば歴史読本は数年前から議論しているし、様々な提言をしているはずである。そうした内容を受けての応答も無い。もっと我々のやる気を喚起するような中身を事業予定案として提示すべきではないか。

事務局（倉田）：次の会議ではもう少し案をふくらませて出そうとは思っている。例えば歴史読本について、民間に委託してというようなご意見もあったが、その元となる原稿に対する報償費の確保ができないというようなこともあり、まだ報告できる状況ではなかった。そうした点もご理解いただきたい。

白井委員：古文書講座の上級コースが無くなったのも予算の関係か。

事務局（築瀬）：これは整理実習ということで単発的に実施したものである。

白井委員：もし予算の関係であれば、初級古文書講座にボランティアの方を補助的に講師につけて、講師を3回、後2回をボランティアさんをお願いするというようにしていくともっとレベルの高い講座を市民に提供できるのではないか。予算が厳しくて刊行が厳しいのなら、それ以外のところでいろいろ活動していけるように考えていく必要があるのではないか。

事務局（築瀬）：ボランティアには中級の補助は難しい。初級であれば、これまでもテキストの終わらなかった部分について学習会を開いていただいている。今年はまだ決まっていないが、できるだけお願いしていこうと思っている。

吉田会長：率直に言ってかなり危機的な状況だと思う。なかなか議論の内容も蓄積していかず、我々のやる気もなくなってしまう。近現代編の編集にいろいろな先生や若い研究者が参加されてきているが、そうして協力してくれる方々は市にとって大事な財産である。気をつけないと、そうしたところがばらばらになってしまう。今井委員の頃より培ってきた人的ネットワークが膨大にあると思うが、そこをもっと大切にされた方がよい。

以上で議事を終了する。これまで出されたいろいろな意見を、教育委員会の方でもぜひくみ取って頂きたいと強く希望する。

議題3 その他

<質疑応答>

特になし。

宇留間部長からの挨拶の後、殿塚副館長の進行により平成22年度第1回千葉市史編さん会議を終了。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231